

〒758-8555 山口県萩市大字江向 510
TEL : 0838-21-7765
e-mail : hg-geo@city.hagi.lg.jp
HP : <http://www.city.hagi.lg.jp/site/hg-geo/>

発行：萩ジオパーク構想推進協議会 事務局

「萩ジオパーク」認定見送り 9/9(金)

事務局長 福島康行

9月9日(金)に開催された日本ジオパーク委員会において、日本ジオパークネットワーク新規加盟地域の認定審査が行われ、その結果、残念ながら次の理由で「萩ジオパーク」は認定見送りとなりました。

【日本ジオパーク委員会が認定見送りとした地域の特徴と理由】 (委員会よりの通知 原文のまま)

萩ジオパーク構想地域は、山口県萩市と阿武町の区域全域に、山口市阿東地域の一部を加えた地域である。大陸縁辺部における様々な様式の火成活動が生み出した地形と、特有の生態系が広がっている。地形・地質、生態系のみならずそれに育まれた歴史・文化といったジオパーク資源の多様性に富んだ地域であると同時に、住民活動が非常に活発であり、ガイド活動や教育活動を中心に市民活動が全域で組織的に展開されている。

しかしながら、萩まちじゅう博物館構想とジオパーク構想とのお互いの位置づけが明確でなく、ジオパーク運営に向けた組織体制の整備に課題が残されている。また、学術的支援をする人材や研究者が乏しく、ジオパーク構想を推進する上での学術面に不安がある。

ジオパークでは『独立し、しっかりした運営組織』が、必ず置かれていなければなりません。審査では萩まちじゅう博物館の取組が広く行われていること自体は、ジオパーク活動としても高く評価されました。しかし、既に萩まちじゅう博物館構想が確立されていることから、将来的に推進協議会が、萩まちじゅう博物館の組織に埋もれてしまう可能性があるかと判断されました。また、永尾隆志先生が亡くなられた後、ジオパークについて深い知識をもち、推協を直接支援する専門家が不在であることも不安視されました。

説明不足から委員会委員の方々には実情を十分理解いただけなかった点もありますが、今回の審査の過程でいただいた助言や指摘された課題等を真摯に受け止め、精査・整理して、引き続き認定を目指し、ジオパーク活動を推進してまいりますので、ご支援・ご協力をよろしくお願いいたします。

「萩ジオパーク構想って？」 急速に広がっている地域での普及活動

平成28年度になってからの萩ジオパーク構想の出前講座の要請は、各地域に広がっています。各団体や自治会・町内会の総会での講演や高齢者のサロン活動にお邪魔する機会が増え、日帰り研修旅行のコースとして、「龍が通った道」をはじめ、ジオサイト巡りを活用していただいております。

8月30日(火)には、福栄支部老人クラブ連合会の皆さんが、「龍が通った道」探訪を企画され、推協事務局からも職員が同行しました。“大地の恵み、”ということで、阿武火山群の火山の1つ「東台」のふもとに湧き出る「羽月の湧水」と「平山台」の梨狩りをコースに組み入れておられました。

翌31日(水)には旭地域合同高齢者学級で、萩ジオパーク構想のお話をさせていただきました。明木地域にある今から3億年前の岩石、「チャート」(ケイ酸分を含む放射虫や珪藻という生き物の遺骸が石になったもの)や、歴史・文化の中の「ジオ」として、萩往還にも触れました。今月も日帰りの研修旅行のガイドや萩市社会福祉協議会の認知症予防教室の講師をさせていただきます。

ジオパークという言葉は造語であり、なかなか馴染みにくい言葉です。長年、大地に根ざして生きてこられた方々の体験につながり、また琴線に触れるようなお話をし、ジオパークの活動を身近に感じてもらいたいと思っています。



(高齢者学級でのジオパーク講座)

「ジオな教育」推進委員会による教材（岩石標本）づくり

8月28日（日）、萩ジオパーク構想推進協議会学術顧問の火除 崇氏（阿武町立阿武中学校教諭）の指導のもと、「ジオな教育」に所属するメンバーが、萩ジオパーク構想エリア内で岩石収集を実施しました。小学校と中学校の理科で学習する「堆積岩」・「火山岩」・「深成岩」について、萩ジオパーク構想エリア内の萩市や阿武町内で産出する岩石を用いて教材化しようとするものです。

生憎の雨模様でしたが、終日をかけて、ほぼ萩市・阿武町全域を巡り、これらの岩石を集められる場所を確認しました。萩ジオパーク構想エリア内だけで、児童・生徒が学習するすべての岩石を集めることができることには驚きでした。地元で集めた岩石を教材化することで、児童や生徒たちは、自分たちの住んでいる大地をより身近に感じることができるのではないのでしょうか。

降雨や現地に生い茂る草木のために、岩石収集は途中であきらめざるを得ませんでした。草木の枯れる初冬に再度採集活動を行い、教材化した岩石セットを、全小・中学校に配布する予定です。



（岩石採集をするメンバー）

理科の授業で「たたら製鉄」を学習 —福栄中学校— 7/19（火）

萩市内福栄地区にある大板山たたら製鉄遺跡は、明治日本の産業革命遺産に指定を受けたものの1つです。地元の福栄中学校では、遺跡見学やたたら製鉄を学ぶ学習会を、これまでに開いてきました。1学期も終わりに近い7月19日（火）、2年生が理科の学習「金属の酸化・還元」の中で、たたら製鉄の仕組みの学習を通して、還元の勉強を深めました。当日は理科担当の引地 昇教諭、福栄文化遺産活用保存会の小野興太郎会長、増野和幸ジオパーク支援員が指導に当たりました。生徒たちが暮らす福栄の大地、その大地が育む花崗岩由来の砂鉄（磁鉄鉱）と、大板山周辺の豊かな森から生産された木炭を燃料に、たたら製鉄は操業されました。かつての中国地方は、全国の鉄生産量の約9割近くを生産されていたと言われます。大板山たたら製鉄所も、その大工業地帯の一角をなしていたのです。あらためて、福栄の地に存在したたたら製鉄を学ぶことは、大地の恵みと自然の姿を学ぶ「ジオの学習そのもの、だと感じました。

*大板山たたらで使用された原料の砂鉄は、島根県石見地方から馬と船で運ばれた良質の砂鉄でした。



（「たたら製鉄」は大地の恵み）



（「大板山たたら製鉄」遺跡）

10月の予定

○弥富そばの花まつり 10月2日（日）9:30～15:00、そば打ち体験、神楽ほか、主催：弥富むらおこし会、協賛：弥富そば生産組合

○講演「見島の地震・津波と活断層」、講師：金折祐司先生（元山口大学教授）in 見島総合防災訓練 10月2日（日）、宇津・見島体育館 10:00～10:30、本村・中学校体育館 11:00～11:30、主催：萩市

○青少年のための科学の祭典 萩大会 10月2日（日） 明倫小体育館 10:00～15:00、*23の出展ブースのうちジオ関係も3出展あります。 主催：青少年のための科学の祭典萩大会実行委員会

○第7回日本ジオパーク全国大会 伊豆半島大会 10月10日（月）～12日（火）、場所：静岡県沼津市他、テーマ「連携が生み出す未来」、主催：日本ジオパークネットワーク、伊豆半島ジオパーク推進協議会

○地質めぐり 須佐・高山方面 10月16日（日） 13:00～16:00、対象：一般・定員20名、要事前申込（詳細は県立博物館HP）、主催：山口県立山口博物館・山口地学会